

子ども・育児について

第一子を持つ理想の年齢

- 「25-29歳」が53.3%と最も多く、「30-34歳」が25.0%となっており、平均年齢は27.8歳。
- 男性の方が「30-34歳」の割合が高い。一方、現在配偶者がいる層や子どもがいる層で「25-29歳」が約6割と高く、また、子どもの人数が多くなるにつれ、「20-24歳」の割合も高くなる傾向がみられる。
- 【内閣府調査】と【郵送調査】の同年代で比較すると、【郵送調査】の方が第一子を持つ理想の平均年齢は1歳ほど若い。

Q34.あなたご自身は、理想的には何歳くらいで子ども(第一子)を持ちたいと思いますか。実際にどうであるかは別として、あなたにとっての理想の年齢をお答えください。【全体ベース】

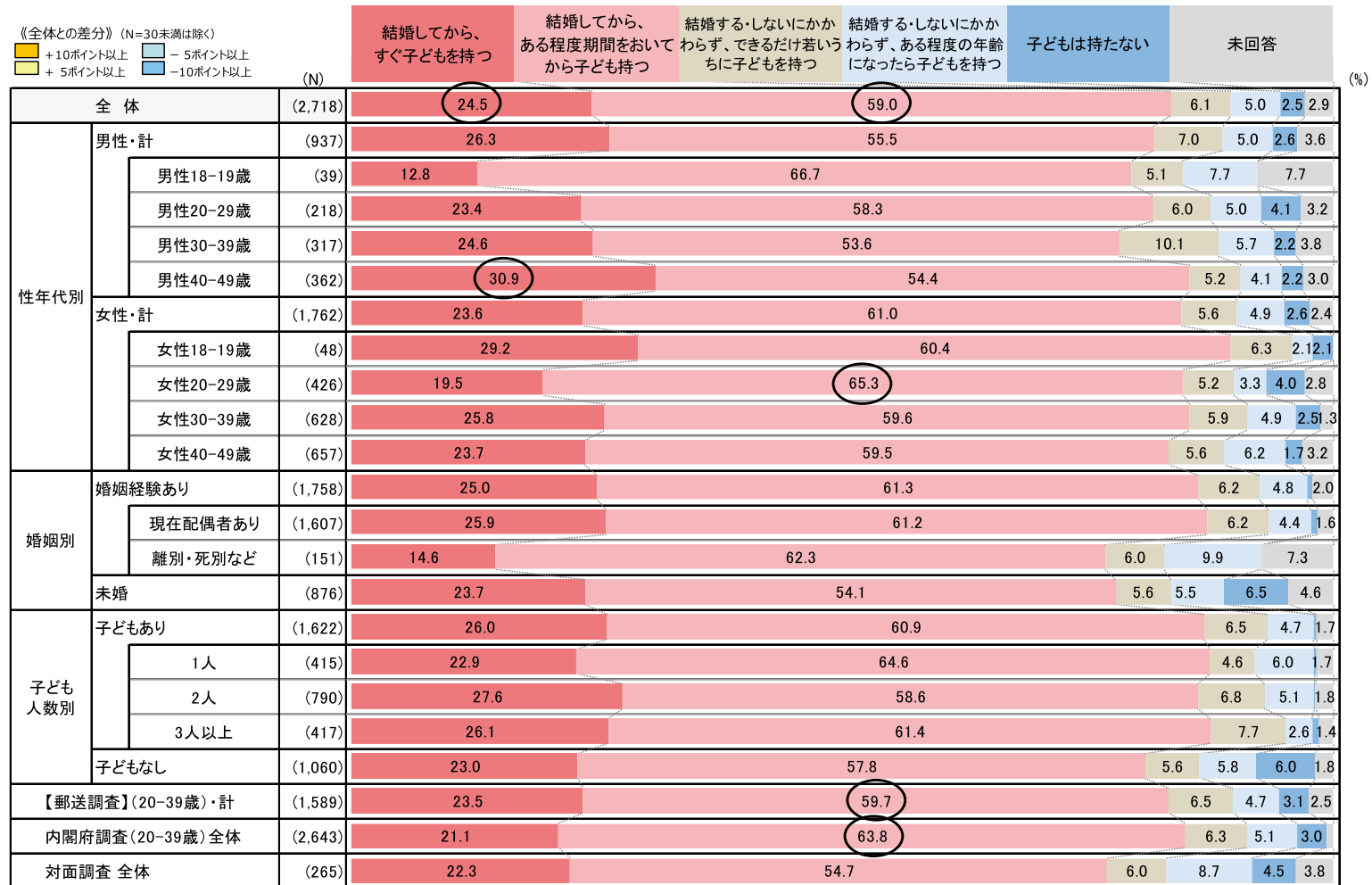
		(N)	10代	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40歳以上	未回答	平均年齢	
全体		(2,718)	10.6		53.3		25.0	5.3	1.7	3.6	27.8
性年代別	男性・計	(937)	5.3	39.8			35.0	10.8	3.7	5.0	29.3
	男性18-19歳	(39)	2.6	61.5			23.1	2.6	10.3		27.7
	男性20-29歳	(218)	6.4	33.5		39.4		13.3	1.8	5.5	29.8
	男性30-39歳	(317)	5.4	42.6		33.1		10.1	4.1	4.1	29.2
	男性40-49歳	(362)	5.0	39.0		35.4		10.8	5.0	4.7	29.4
	女性・計	(1,762)	13.5		60.4			19.8	2.4	2.8	27.1
	女性18-19歳	(48)	12.5	77.1				10.4			26.7
	女性20-29歳	(426)	12.7		62.0		16.4	3.5	3.8		27.2
女性30-39歳	(628)	13.9		57.8		22.5	2.9	1.8		27.2	
女性40-49歳	(657)	13.7		60.9		20.1	1.4	3.2		26.9	
婚姻別	婚姻経験あり	(1,758)	13.3		59.6		21.5	2.5	2.1		27.0
	現在配偶者あり	(1,607)	13.4		60.5		21.4	2.4	1.6		26.9
	離別・死別など	(151)	1.3	11.9	49.7		22.5	4.0	3.3	7.3	27.7
	未婚	(876)	4.9	41.1		32.1		11.0	3.9	6.8	29.7
子ども人数別	子どもあり	(1,622)	14.6		61.2		19.6	2.1	1.7		26.7
	1人	(415)	11.1	55.2		28.2		3.4	1.7		27.6
	2人	(790)	13.9	63.4		18.5		1.5	1.9		26.7
	3人以上	(417)	1.2	19.4	62.8		13.2	1.9	2.2		26.0
	子どもなし	(1,060)	4.7	43.1		34.0		10.4	3.8	3.7	29.6
【郵送調査】(20-39歳)・計		(1,589)	10.8		52.5		25.3	5.9	1.6	3.3	27.9
内閣府調査(20-39歳)全体		(2,643)									29.1
対面調査 全体		(265)	1.9	38.5		39.2		9.4	1.1	9.8	29.8

※集計対象は性別・年齢/婚姻/子ども人数の無回答を含む。1%未満のグラフスコアは非表示。
 ※内閣府調査は年齢ごとのデータ非公表のため不明(平均のみ表示)。

子どもを持つ理想の時期

- 「結婚してから、ある程度期間をおいてから子どもを持つ」が59.0%と最も多く、次いで、「結婚してから、すぐに子どもを持つ」は24.5%。
- 女性20-29歳で「結婚してから、ある程度期間をおいてから子どもを持つ」が65.3%と高い。
一方、男性40-49歳で「結婚してから、すぐに子どもを持つ」が30.9%と高い。
- 【内閣府調査】と【郵送調査】を同年代で比較すると、【郵送調査】の方が「結婚してから、ある程度期間をおいてから子どもを持つ」が低い。

Q35.あなたが理想とする子どもを持つ時期についてお伺いします。実際にどうであるかは別として、あなたにとってこうしたい(こうしなかった)というものをお選びください。【全体ベース】

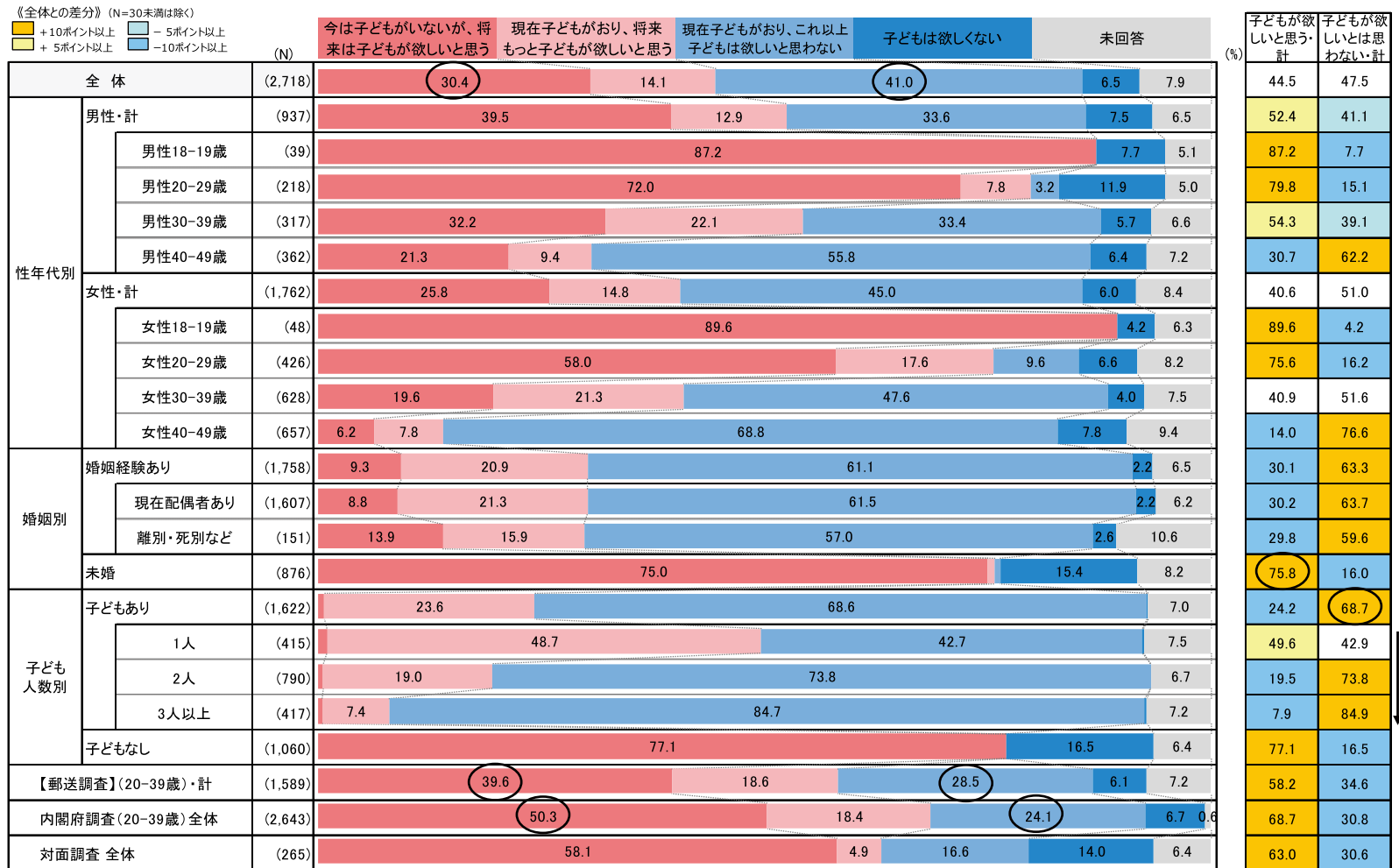


※集計対象は性別・年齢/婚姻/子ども人数の無回答を含む。1%未満のグラフスコアは非表示。

子どもが今後どの程度欲しいか

- 「現在子どもがおり、これ以上子どもは欲しいと思わない」が41.0%と最も多く、次いで、「いまは子どもはいないが、将来は子どもが欲しいと思う」が30.4%。
- 現在子どもがいる人のうち、約2/3が「これ以上、子どもは欲しいと思わない」と評価しており、子ども人数が増えるにつれ、高くなる傾向。一方、未婚者においては、「将来は子どもが欲しいと思う」が75.8%となっている。
- 【内閣府調査】と【郵送調査】を同年代で比較すると、【郵送調査】の方が「今は子どもがいないが、将来は子どもが欲しい」が10.7ポイント低く、「現在子どもがおり、これ以上子どもが欲しくない」が4.4ポイント高い。

Q36.あなたの子供についてのお考えは、以下のどれに当てはまりますか。【全体ベース】



※集計対象は性別・年齢/婚姻/子ども人数の無回答を含む。1%未満のグラフスコアは非表示。

子どもは欲しいかどうか(もっと欲しいかどうか)／理由(対面調査:自由回答)

Q43. Q42のように思われた理由を、下欄に具体的にご記入ください。【未婚者ベース】

【今は子どもがいないが、将来は子どもが欲しいと思う】

- 子どもはかわいいから。(30～34歳)
- 子どもが好きだから。(35～39歳)
- 子育てしてみたい。(25～29歳)
- 子どもが好きで、相手も望んでいるから。(30～34歳)
- 愛する夫との子どもを産み育てたい。(30～34歳)
- 子はかすがいと言うし、将来的にも子どもに支えてもらう部分も多いと思うので。(35～39歳)
- 今は2人の時間を大切にしたい。(30～34歳)
- ある程度落ち着いた頃にタイミングを見計らってからがいい。(25～29歳)
- 自分が年をとった時のことを考えて。(30～34歳)
- 子どもは家庭を持つ上で必要だと思うから。(30～34歳)
- 日本経済・家庭の将来の為。(25～29歳)

【現在子どもがおり、将来もっと子どもが欲しいと思う】

- かわいいから。(35～39歳)
- 子どもは2人ほしいから。(25～29歳)
- きょうだいがいた方がよい。(35～39歳)
- 親が亡くなった時に相談できる、支え合える相手をつくってあげたいから。自分に姉達がいる、たくさんすくわれた事や、学んだことがあるから。(30～34歳)

【現在子どもがおり、これ以上子どもは欲しいと思わない】

- 子2人で手いっぱいだから。(40～44歳)
- もう一人産むとなると、自分の自由がなくなりそうだから。(30～34歳)
- 年齢的に。(40～44歳)
- 二人で満足している。(35～39歳)
- もう一度最初から子育てしたくない。(40～44歳)
- 経済的に無理です。(35～39歳)
- 経済的な理由からそう思います。(25～29歳)

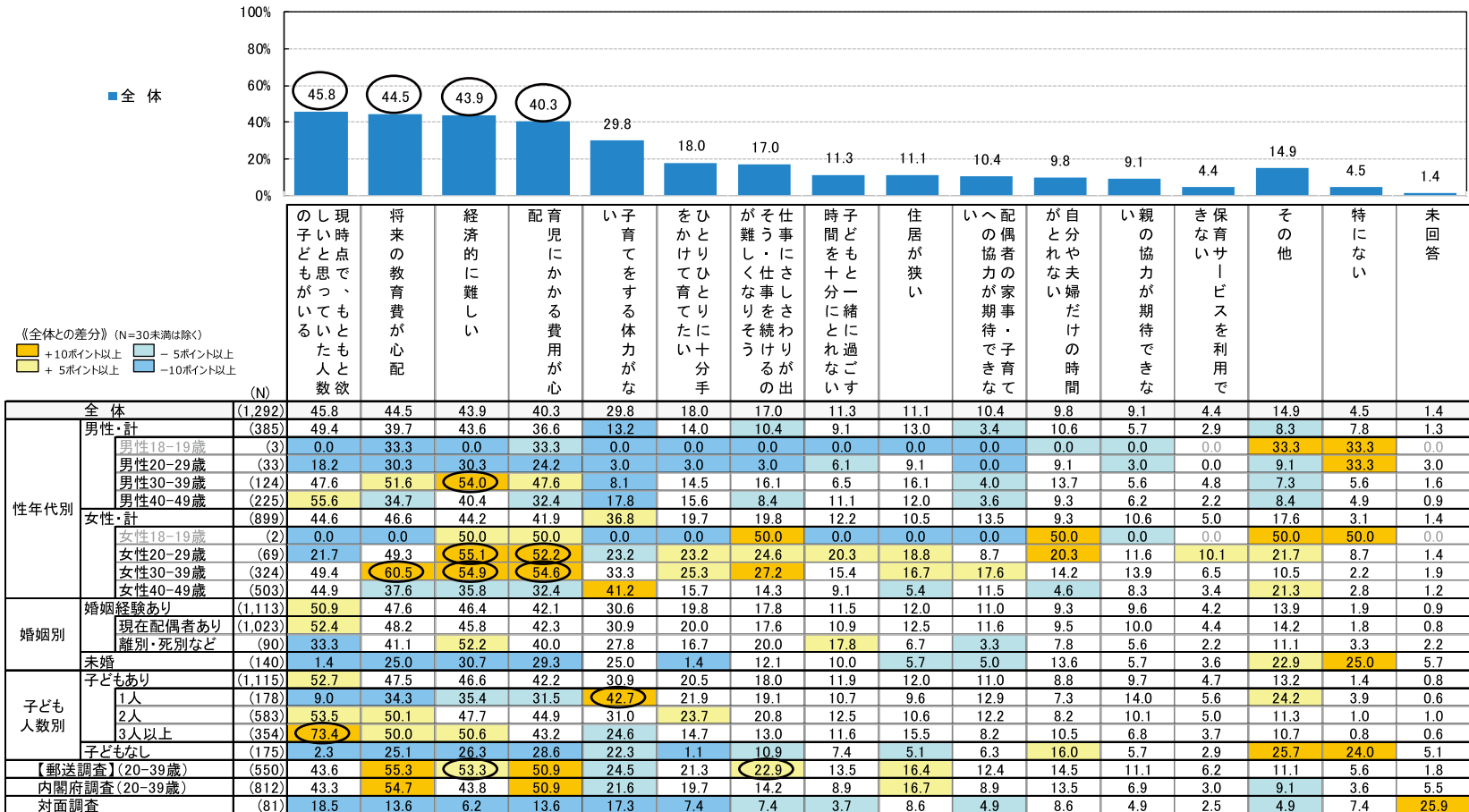
【子どもは欲しくない】

- 経済的に無理。(35～39歳)
- 育てられない、金銭的な余裕がない、自分の時間が少なくなる。(35～39歳)
- 子どもが嫌い。(35～39歳)
- 体力的に無理。(45～49歳)

子どもが欲しくない理由

- (これ以上)子どもが欲しくない理由としては、「現時点で、もともと欲しいと思っていた人数の子どもがいる」(45.8%)、「将来の教育費が心配」(44.5%)、「経済的に難しい」(43.9%)、「育児にかかる費用が心配」(40.3%)が上位にあげられている。
- 女性30-39歳で「将来の教育費が心配」、男女とも30-39歳で「経済的に難しい」、女性20-29歳で「育児にかかる費用が心配」が高い。
- 現在子どもが3人以上いる層では、「現時点で、もともと欲しいと思っていた人数の子どもがいる」が73.4%と高い。一方、現在子どもが1人いる層では「子育てをする体力がない」が高い。
- 【内閣府調査】と【郵送調査】を同年代で比較すると、【郵送調査】の方が「経済的に難しい」が9.5ポイント、「仕事にさしさわりが出そう・仕事を続けるのが難しくなりそう」が8.7ポイント高い。

Q37.(これ以上)子どもが欲しくないと思うのはなぜでしょうか。当てはまるものをすべてお選びください。【「現在子どもがおり、これ以上子どもが欲しくない」「子どもは欲しくない」人ベース】



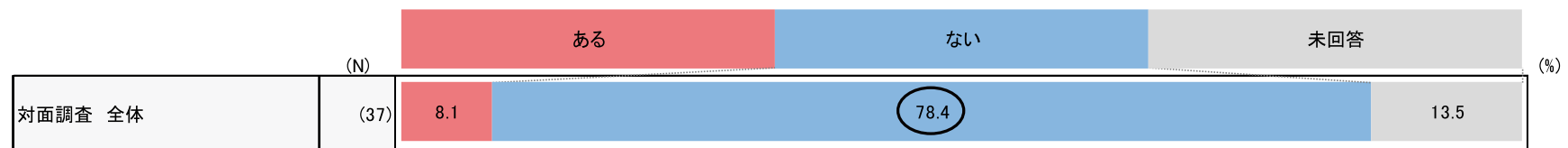
※集計対象は性別・年齢・婚姻/子ども人数の無回答を含む。全体で降順ソート。

(%)

子どもがいないことによる将来的な不安有無／理由(対面調査:自由回答抜粋)

- 子どもが欲しくない人においては、将来的な不安が、「ない」が78.4%と多い。

Q49.あなたは、子どもがいないことによる、将来的な不安がございますか。【「子どもは欲しくない」人ベース】



※集計対象は年齢無回答を含む。1%未満のグラフスコアは非表示。

Q50.(上記Q49で「1. ある」とお答えの方に)あなたにとって、将来的に不安な内容を、具体的にご記入ください。【不安がある人ベース】

- 老後、孤独死しそう。(30～34歳)
- 夫がなくなったら1人ぼっちになる。(40～44歳)
- 介護してもらえない人がいない。(40～44歳)

欲しい子どもの人数

- 「2人」が約半数と最も多く、「3人」が約1/3で、平均2.3人。
- 男性18-29歳で、欲しい子どもの人数が少ない傾向がみられ、未婚者では「欲しくない」が1割を超える。子どもが1人いる層の8割が「2人以上」、2人いる層で4割以上が「3人以上」を欲しいと回答している。
- 【内閣府調査】と【郵送調査】を同年代で比較すると、【郵送調査】の方が「3人以上」の割合が7.9ポイント高く、多くの子どもを望んでいる。

Q38.あなたは子どもを実際に何人くらい欲しいですか。当てはまるものをお選びください。※現在子どもがいる方は、その子どもも含めた人数をお答えください。
【全体ベース】

		(N)	1人	2人	3人	4人	5人以上	欲しくない	未回答	平均
全体		(2,718)	5.3	48.1	34.1	3.9	1.5	4.8	2.4	2.3
性年代別	男性・計	(937)	4.8	50.5	31.6	3.1	1.7	5.8	2.6	2.3
	男性18-19歳	(39)		61.5	25.6	7.7	5.1			2.1
	男性20-29歳	(218)	6.9	56.9	21.1	2.8	8.7	2.8		2.1
	男性30-39歳	(317)	4.1	46.7	36.9	3.2	2.5	4.1	2.5	2.4
	男性40-49歳	(362)	4.7	48.9	34.0	3.6	1.7	5.2	1.9	2.3
	女性・計	(1,762)	5.6	46.8	35.6	4.2	1.4	4.3	2.1	2.3
	女性18-19歳	(48)	2.1	66.7	25.0	2.1	4.2			2.2
	女性20-29歳	(426)	4.7	52.6	31.7	2.3	4.5	3.3		2.3
婚姻別	女性30-39歳	(628)	6.2	44.7	37.4	5.4	2.4	2.9		2.4
	女性40-49歳	(657)	5.9	43.7	37.0	4.6	5.5	2.6		2.3
	婚姻経験あり	(1,758)	4.7	43.8	41.2	5.1	2.0	1.6		2.5
	現在配偶者あり	(1,607)	4.2	43.3	42.3	5.3	2.1	1.4		2.5
離別・死別など	(151)	9.9	49.0	29.1	2.6	2.0	3.6	6.0	2.3	
未婚	(876)	6.3	57.4	19.4	1.3	11.5	3.5		1.9	
子ども人数別	子どもあり	(1,622)	4.7	41.6	44.4	5.7	2.2	1.1		2.6
	1人	(415)	18.3	54.0	23.9	1.7	1.2			2.1
	2人	(790)		57.0	38.5	2.7	1.1			2.4
	3人以上	(417)		76.0	15.3	7.0				3.3
	子どもなし	(1,060)	6.5	59.3	19.4	1.2	11.6	1.4		1.9
【郵送調査】(20-39歳)・計	(1,589)	5.5	48.9	33.5	3.8	1.8	4.3	2.1	2.3	
内閣府調査(20-39歳)全体	(2,643)	7.0	55.1	27.0	3.2	1.0	6.0		-	
対面調査全体	(265)	8.3	49.1	21.1	1.1	10.9	9.4		1.9	

※集計対象は性別・年齢/婚姻/子ども人数の無回答を含む。1%未満のグラフスコアは非表示。

子どもがいて良かったと思うこと／理由(対面調査:自由回答抜粋)

Q45.子どもがいてよかったと思うことはどのようなことですか。具体的にご記入ください。【子どもがいる人ベース】

- 喜びや悲しみを共有できる。(45～49歳)
- すべてにおいて幸福感を得られるから。(45～49歳)
- 生活が楽しくなる。やさしい自分になれる。(40～44歳)
- 笑顔が見れる事。(45～49歳)
- 子どもの笑顔のためにがんばろうと思う。(30～34歳)
- 成長がおもしろい。(35～39歳)
- 仕事がつかれていた時にいやされる。成長がたのしい。自分も成長できる。昔を思い出せるようになる。(30～34歳)
- 責任感が増した。人生の幅が広がった。(25～29歳)
- 何事もがんばれる。(40～44歳)
- 色々な経験が出来る。視野が広がる。(45～49歳)
- 育児をしながら育自(成長させられる)。(45～49歳)
- 毎日楽しい。親が逆に成長させてもらっている。(30～34歳)
- 大きくなったとき頼りになる。(45～49歳)

子育ての不安、不満・不便に感じる事／理由(対面調査:自由回答抜粋)

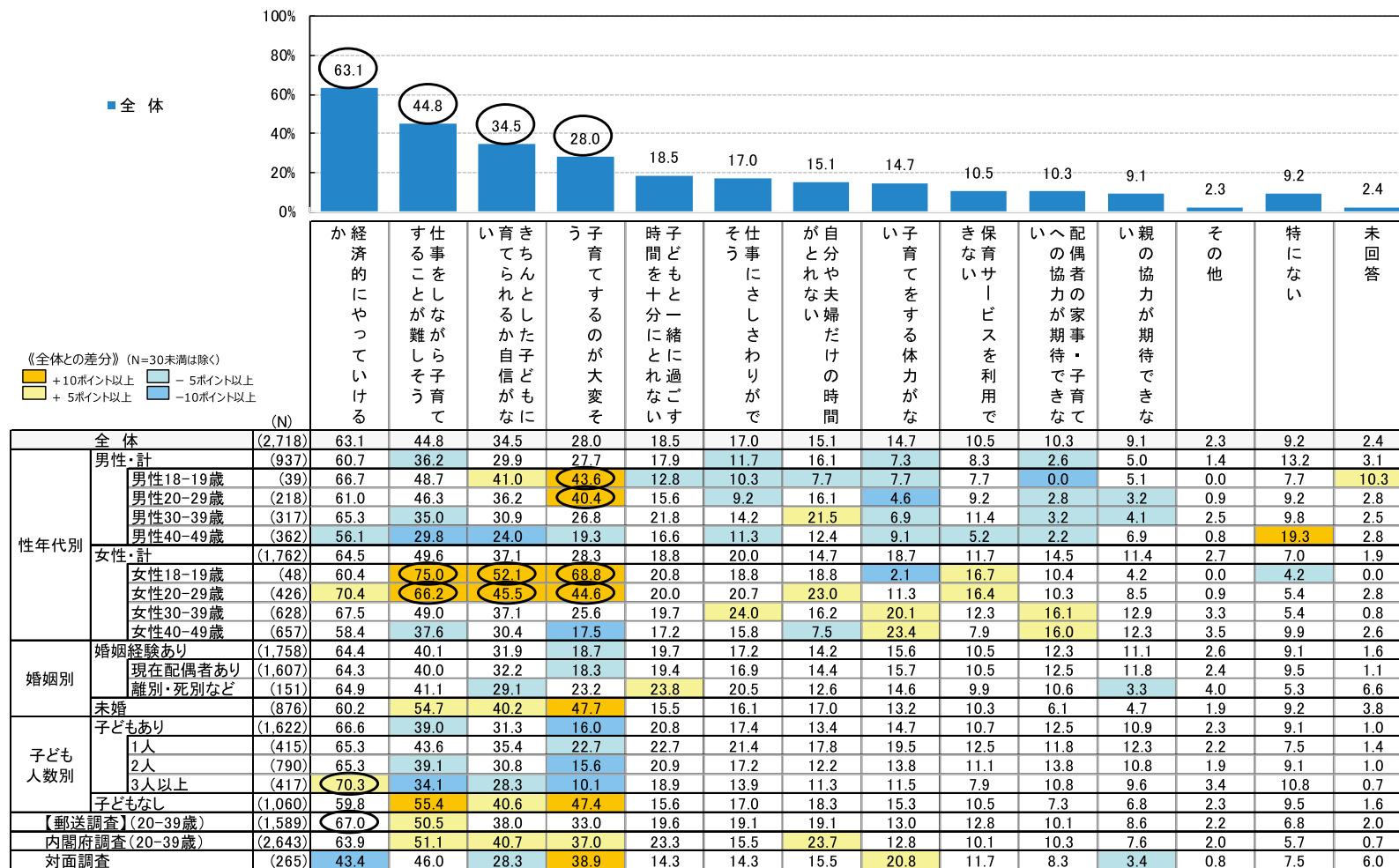
Q46.子育てについての不安や、不満・不便に感じる事がございましたら、具体的にご記入ください。【子どもがいる人ベース】

- お金の問題。(40～44歳)
- 仕事と子育ての両立。熱が上がっても休めない時、困ったなあと思う。(40～44歳)
- 2人目できた時、また派遣でやとってもらえるか不安。経済的にもやっていけるのか不安。子どもに何かあった時、仕事を休むのに罪悪感を感じる。(30～34歳)
- 行事が多く、仕事を休みがち。(30～34歳)
- 子の友達関係、勉強など。(40～44歳)
- 反抗期をうまく乗りきれぬか。(30～34歳)
- 学費や部活動の費用がかかりすぎる。(45～49歳)
- 大学進学時のお金。(40～44歳)
- 過保護にならないか不安。(45～49歳)
- 将来、何かと不安・相談できる機関がどこかわからない。(30～34歳)
- 子どもが主体になるので関わり方に初めとまどう。(35～39歳)
- 主人が転職になったとき、子育ての負担が増えたらと思うと不安。(40～44歳)
- 時間的拘束。(35～39歳)
- 教育環境の地域格差。(25～29歳)

子育てで不安に思っていること

- 「経済的にやっつけられるか」が63.1%と最も高く、次いで「仕事をしながら子育てすることが難しそう」(44.8%)、「きちんとした子どもに育てられるか自信がない」(34.5%)、「子育てするのが大変そう」(28.0%)となっている。
- 女性(特に18-29歳)で「仕事をしながら子育てすることが難しそう」「きちんとした子どもに育てられるか自信がない」、男女とも18-29歳で「子育てするのが大変そう」が高い。
子どもの人数が3人以上では「経済的にやっつけられるか」が70.3%と高い。
- 【内閣府調査】と【郵送調査】を同年代で比較すると、【郵送調査】の方が「経済的にやっつけられるか」が高い。

Q39.子育てで不安に思っていることは何ですか。当てはまるものをすべてお選びください。【全体ベース】



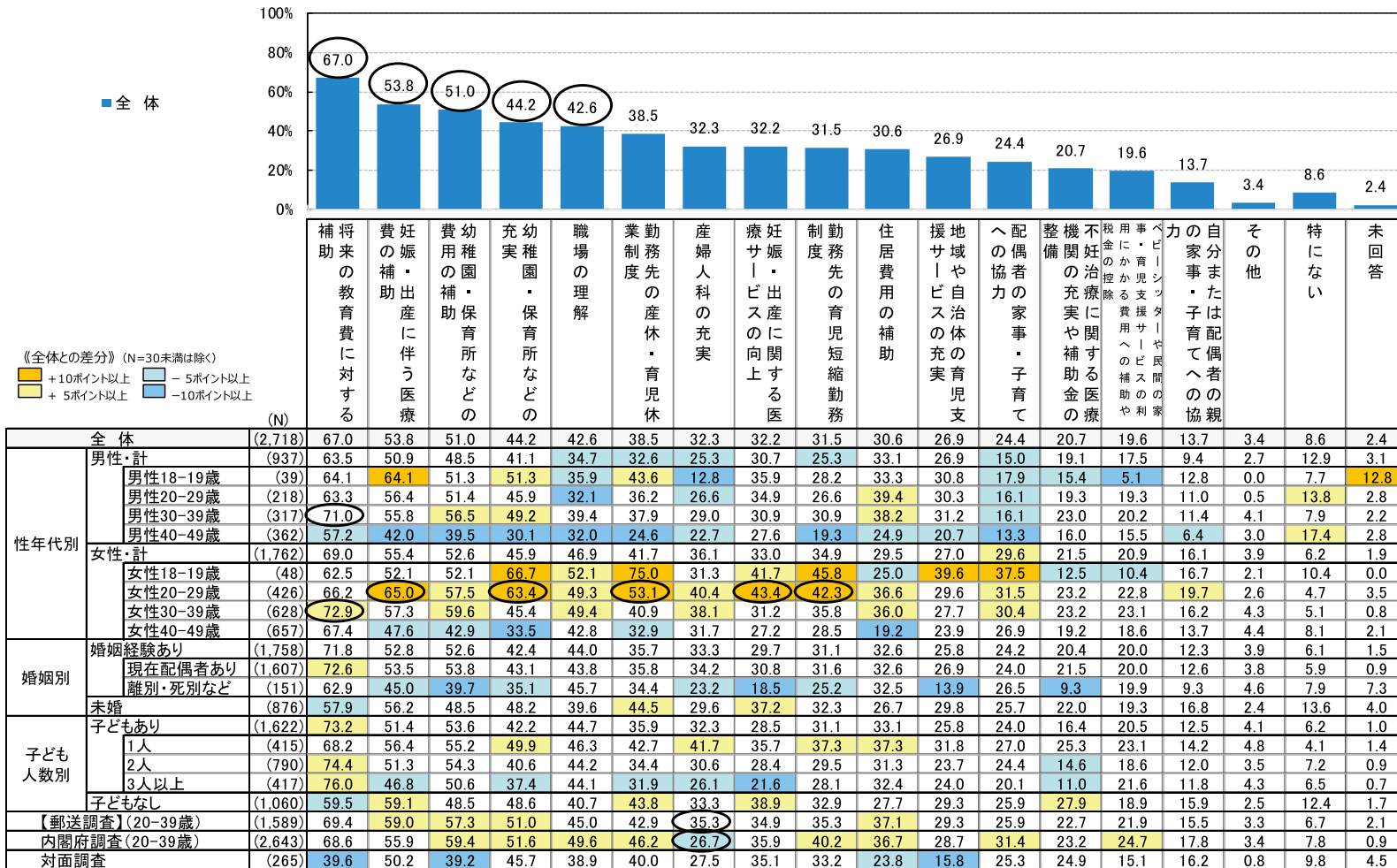
※集計対象は性別・年齢/婚姻/子ども人数の無回答を含む。全体で降順ソート。

(%)

子どもを持つことに積極的になる要素

- 「将来の教育費に対する補助」が67.0%と最も高く、次いで「妊娠・出産に伴う医療費の補助」「幼稚園・保育所などの費用の補助」が半数以上、「幼稚園・保育所などの充実」「職場の理解」が4割以上と、求める内容は多岐にわたる。
- 男女とも30-39歳では「将来の教育費に対する補助」が約7割と高い。また女性20-29歳では「妊娠・出産に伴う医療費の補助」のほか、多くの内容をあげている。
- 【内閣府調査】と【郵送調査】を同年代で比較すると、【郵送調査】の方が「産婦人科の充実」をあげた割合が高く、6ポイントの差がある。

Q40.次に挙げることからうち、どのようなことがあれば、あなたは(もっと)子どもが欲しいと思うと思いますか。【全体ベース】



※集計対象は性別・年齢・婚姻/子ども人数の無回答を含む。全体で降順ソート。

(%)

子どもの数が少ない現状改善のため、最も効果的と思う内容 (対面調査:自由回答抜粋)

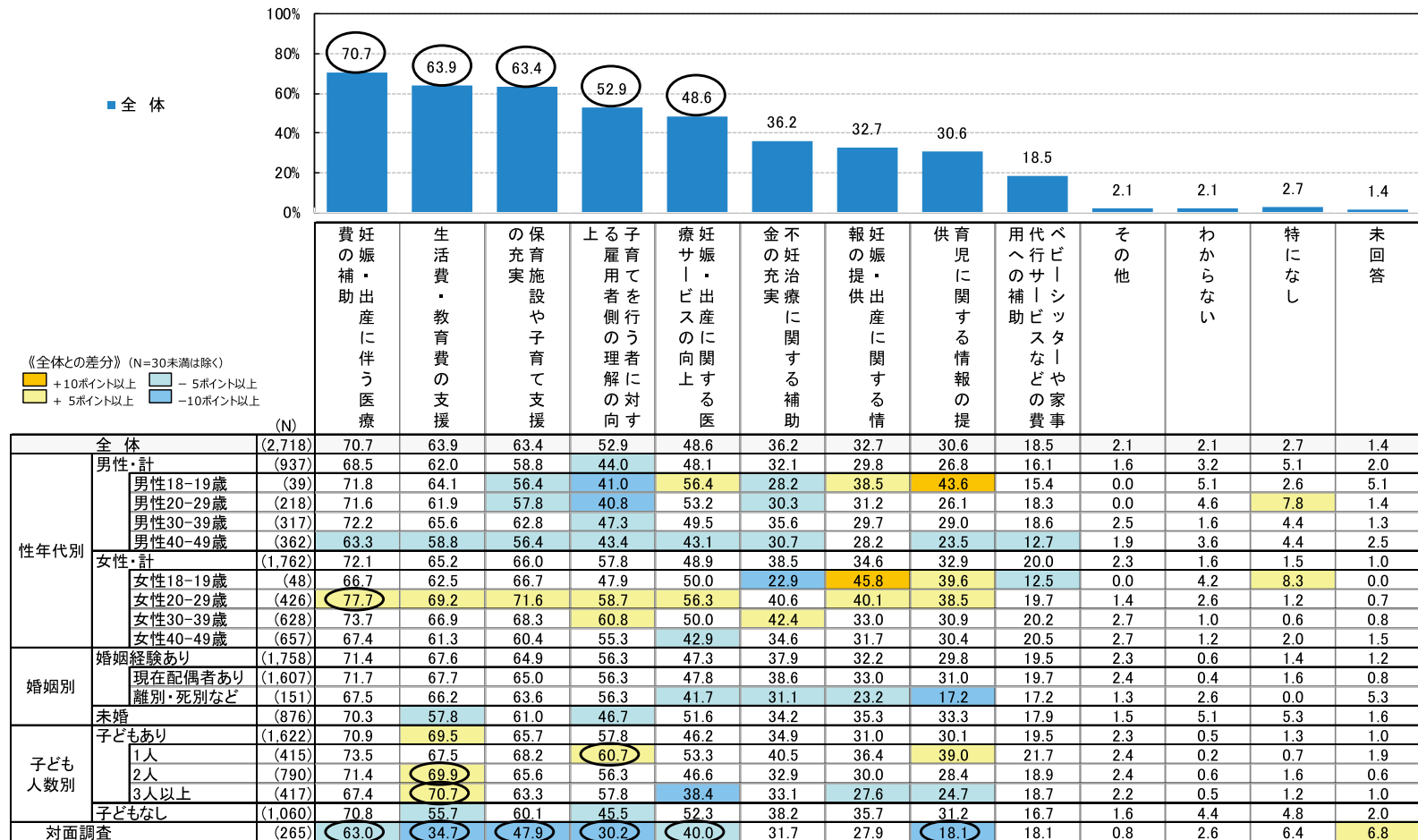
Q52.子どもが少なくなっている現状を改善するために、最も効果的だと思うことはどのようなことですか。具体的にご記入ください。【全体ベース】

- 子どもが増えるように、助成制度の充実が大事。(35～39歳)
- 育児支援、妊娠、出産に伴う医療費の補助。(35～39歳)
- 保育所などの充実。(25～29歳)
- 保育園の充実、子育て費用の援助に尽きます。(30～34歳)
- 仙台の場合は、産婦人科の充実、職場への理解。(30～34歳)
- 不妊治療も保険が効くといい。(40～44歳)
- 国の制度の見直し、子育てしやすい環境が必要だと思う。(25～29歳)
- 会社、地域ぐるみの協力、金銭的不安、保育施設の充実。(40～44歳)
- 子育てしやすい環境。金銭的な補助。(40～44歳)
- 女性が休みやすく、復帰しやすい会社が増えること。(30～34歳)
- 働く女性が増えているので、保育所の増設に伴う保育士の給料UP。(25～29歳)
- 経済力がアップすること。本当にお金がないとつらいです。(30～34歳)
- 給与を上げること。金銭面が一番だと思います。(30～34歳)
- 雇用の安定化。(35～39歳)
- 家庭を持つことへのプラスのイメージを持たせる。(25～29歳)
- 結婚したがる男性が少ない。女性はしたい人が多いと思うので。男性にもっと結婚したい気持ちにさせるべき。(35～39歳)

出産や子育てを希望する人に対して行政に期待する取組

- 「妊娠・出産に伴う医療費の補助」が70.7%と最も高く、次いで「生活費・教育費の支援」「保育施設や子育て支援の充実」が6割以上、「子育てを行う者に対する雇用者側の理解の向上」が半数以上、「妊娠・出産に関する医療サービスの向上」が5割弱と高い。
- 「妊娠・出産に伴う医療費の補助」は女性20-29歳で高い。また、「生活費・教育費の支援」は子ども人数が2人以上の層で、「子育てを行う者に対する雇用者側の理解の向上」は、子どもが1人いる層で高い。
- 【対面調査】では既婚率が低いためか、「妊娠・出産に伴う医療費の補助」「生活費・教育費の支援」「保育施設や子育て支援の充実」「子育てを行う者に対する雇用者側の理解の向上」「妊娠・出産に関する医療サービスの向上」「育児に関する情報の提供」をあげた割合が低い。

Q50. 出産や子育てについて、行政に実施してほしい取組は何ですか。当てはまるものをすべてお選びください。【全体ベース】



※集計対象は性別・年齢・婚姻/子ども人数の無回答を含む。全体で降順ソート。

(%)